

受注企業動向調査結果

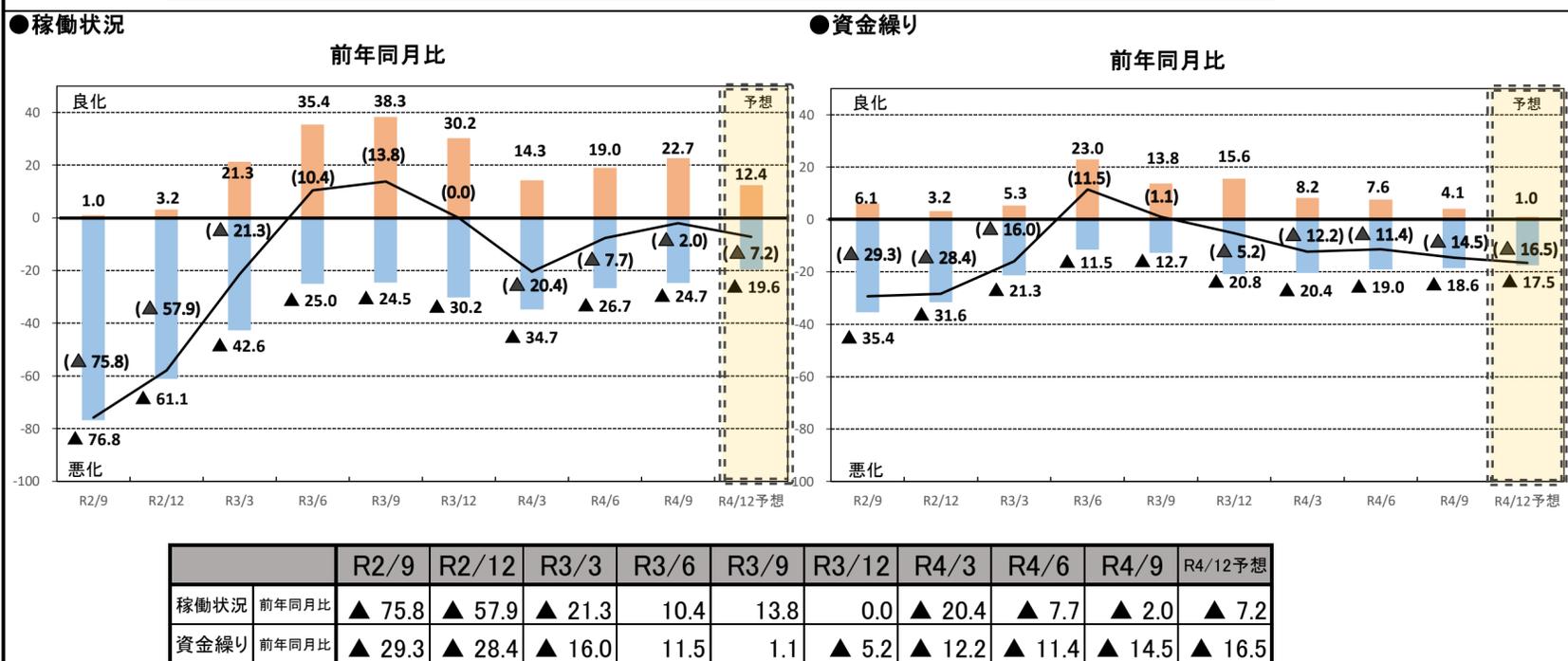
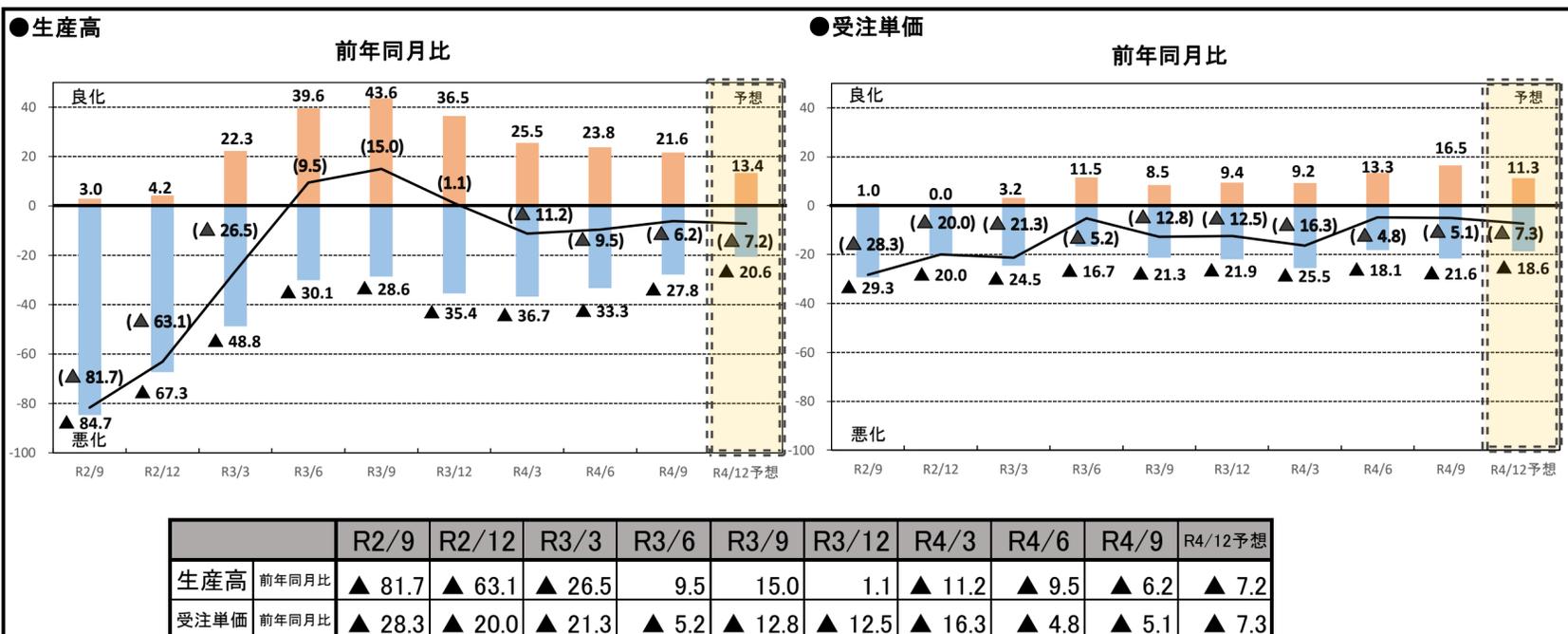
-2022.10-

- 調査時点 令和4年9月調査(令和4年9月末時点)
- 対象企業 150社
- 調査時期 4半期毎(3、6、9、12月末時点)
- 回答企業 97社(回答率:64.67%)

<業種内訳>

プラスチック	9社
鉄鋼・非鉄	6社
金属製品	21社
一般機械器具	20社
電気機器	18社
輸送用機器	6社
精密機器	11社
縫製	6社
計	97社

DI(Diffusion Index)とは、景気の動きをとらえるための指標であり、良化と回答した企業の割合から、悪化と回答した企業の割合を減じた数値です。



- 概要(総合)
- ・生産高(前年同月比)DIは▲6.2で前回の▲9.5から3.3ポイント増となった。
 - ・受注単価(前年同月比)DIは▲5.1で前回の▲4.8から0.3ポイント減となった。
 - ・稼働状況(前年同月比)DIは▲2.0で前回の▲7.7から5.7ポイント増となった。
 - ・資金繰り(前年同月比)DIは▲14.5で前回の▲11.4から3.1ポイント減となった。
 - ・3ヶ月後の予想DIは生産高が▲7.2、受注単価は▲7.3、稼働状況が▲7.2、資金繰りは▲16.5という予想になった。
 - ・その他自由意見として、
 - ・昨年同様の仕事量がしばらくの間続くと思われる。
 - ・材料費の値上げは一服感があるが、電気代やエネルギー代はかなり上昇している。
 - ・円安により資材が値上がりしている。また、電力料金の値上げ対策が必要となる。
 - ・原材料、資材等全てにおいて、これまでにない値上げで価格転嫁が追いつかない。
 - ・人材募集に対して応募が無く困っている。
 - ・価格転嫁や人材不足が課題である。

という意見が寄せられた。